

かざぐるま

小川未明

青空文庫

えきまえ 駅前の広場で、二人の女はとなりあつて、その日の新聞を、ゆき来の人に売つてい
ました。一人は、もう年をとつた母親であつたが、一人は、まだ若い、赤ん坊をおぶつ
た女でありました。

朝のうちは、電車のつくたび、乗り降りするものがはげしいので、新聞もよく売
たが、正午近くなると、買うものが、あまりなかつたのです。

冬の日は、広場の土を白々とらしていました。ただ、紙くずが、風にふかれて、そ
の上をとんでいます。二人は、なにを考えているのか、ぼんやりと、前の方をながめてい
ました。

すぐ向むこう筋に中華料理店があつて、さつきから、入り口のドアが、あいたり、し
まったりしていました。そして、いましがた、桃色の服をきた女と、背の高い、黒服
の男が、手をとりあつて、入つたように思つたのが、いつのまにか時間がたち、もう食
事をすまして、二人が出てくるのを、年とつた女は見たのでした。かの女は、
「うちのむすこは、まだこんな上等のところを知らないだろう。」と、思いました。
それは、母親にとつて、うれしいことであり、また、かわいそうなことであるような

気がしました。

ゆうべのこと、むすこは、工場からかえると、やぶれた仕事服のポケットをさぐり、金をとり出して、

「おかあさん、映画を、見にいつていらつしやい、お正月だもの。」と、前へ差し出したのでした。

そのよごれた手を見るうち、ふと幼いころ、おまえの手はだれに似て、まるくて、かわいらしいのだろうと、よくいったことが、記憶にうかんだのです。そしてその手が、私たちの暮らしを立てていると思うと、泣かずにいられませんでした。

「いまごろ、むすこは工場で、はたらいているだろう。」と、遠くの煙突から、白い煙の上ののを見て、かの女は思いました。

「このごろ、ご主人は、どうなの。」と、わかい女に聞きました。
赤ちゃんの父親は、病気でねていました。

あくる日、年とったほうの女は、デパートの、かざられた衣裳の前に立っていました。そこには、三万円の札のついた帯地、また二万円の札のさがった晴れ着が、かかって

いました。

「だが、これを買うのだろうか。私も、となりの若い女も、一生身につけることはないだろう。」

そう思うと、なんとなく、さびしい気がして、かの女は、おもちゃのある売り場へいそいだのでした。そして、そこで、むすこが映画を見ろといってくれた金で、となりの赤いやんがよろこびそうな、赤いかざぐるまを買いました。

かの女は、それを大事そうにもって、階段を下り外へ出ました。つめたい風に、セルロイドのかざぐるまは、さらさらと、かわいた音をたてて、まわるのでありました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 14」講談社

1977（昭和52）年12月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「うずめられた鏡」金の星社

1954（昭和29）年6月

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2019年3月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

かざぐるま

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>